

# 日本点字事情 かわら版

横浜市立盲学校  
点字研究部

1999年7月12日発行 NO.20

文責 道村静江

< 前号からの続きです。今回はとても間違えやすい「補助動詞」と、難解極まりない「する」の切れ続きの登場です。 >

## 8. 「こそあど言葉」は、ほとんど区切ります。

・でも、こそあど言葉の後に助詞・助動詞がくる場合は続けます。

例：どうでしょう、どのように、どのくらい、どうなのか、それらしい

・でも、1語になりきっている言葉は続けます。 < 便利帳 12 p (注意) >

## 9. 「補助動詞」って、よく出てきます。区切ります。

・「補助動詞」とは、本来の意味を失って、他の語につき、補助的な役割で用いられる動詞。「て・で」の後に続くものが多く、ひらがなで書くものです。

< 便利帳 12 p >

・言葉のリズムとして、その間に半ポーズぐらいの切れ目があるのが目安になります。

・補助動詞が省略されて、前の語とつまって、音に切れ目がないときには、続けます。 < 便利帳 13 p (注意) >

## 10. 「ない」の書き方：いろいろで複雑。 < 便利帳 14, 15 p >

・「ない」が形容詞の場合は、区切る。

・「～ない」を「～はない」と置き換えられる場合は、区切る。(補助形容詞)

・動詞の後に続く「ない」は続ける。(打ち消しの助動詞)

・「～ない」が一語になりきっている場合は続ける。

・「～ない」「～なさい」が「い」の省略形であれば、続ける。

・「～なさい」が「し」の省略形であれば、区切る。

・いずれにしても、音のリズムで区切るものには間に半ポーズあるような気がします。

## 11. 形容詞「～く」の後の「なる・して」などは区切る。 < 便利帳 15 p >

・ただし、消滅を表す複合動詞の「～くなる」「～くして」は続ける。

## 12. 「する」の書き方：これはとっても複雑！ < 便利帳 13 p >

「する」は動詞なので、活用変化(サ行変格活用)があります。「しない、させる、される、します、しました、したら、して、すれば、しよう、しなさい、せよ、しろ」などは、全部「する」の仲間です。

動作などを表す名詞に「する」が続く場合は、続ける。

「する」を伴う名詞の前が、連体修飾語のときは区切る。

つまり、「連体修飾語 + 名詞」でまとまってしまう、その後続く「する」は複合動詞にはならず独立した動詞になるので区切る。

例：短い旅行する ハードな練習する 数学の勉強する

昼寝の邪魔する 君の噂してたよ

「する」を伴う名詞の前が、連用修飾語のときは続ける。

つまり、連用修飾語は「名詞 + する」という複合語全部にかかるので、「する」は続ける。

例：短く旅行する ハードに練習する 数学を勉強する

昼寝を邪魔する 君を噂してたよ

